海辺・川辺調査レポート

■ 名　前（ふりがな）	小賀　優平（こが　ゆうへい）
■ グループ名	個人
■ 学校名	川崎町立川崎中学校
■ 学　年	2 年
■ 年　齢	１３歳
■ お手伝いしていただいた方の名前	藤川　善和　　（社会教育課）　　小賀　友子（母親）

■ レポートした場所	福岡県川崎町　中元寺川　鮎返り
■ レポートの題名	心のふるさと「鮎返り」
■ 内　容	僕と鮎返りとの出会いは、３年前　町が主催するカヌー教室でした。当時５年生だった僕は両親、弟達と共に初めて挑戦するカヌーをとても楽しみにしていました。会場となっていた鮎返りというところは川崎町のほぼ中央部を南から北へ流れている中元寺川の一端にありました。カヌーに乗れるような川がこの町にあるということも意外でしたし、鮎返りという名前も不思議な響きでした。 カヌーに乗ったのはその鮎返りの少し上流の堰き止めたところで、川幅も広くかなり深いところでした。最初はオールを動かすのもやっとで、苦労しましたがこつがわかると進みだし嬉しかったです。しかしそれよりも僕が思い出に残っているのはカヌー教室のあと役場のおじさんが素潜りを教えてくれ、鮎返りでドンコをもりで突いて川辺で炭に火をつけ焼いて食べながら、父の中学時代の思い出話を聞いたことです。 鮎返りは祖父、父そして僕が通う川崎中学校の下にあります。中学生だった父達は学校の帰り道、制服を脱ぎ捨てパンツ１枚でこの鮎返りで泳いでいたこと、橋から飛び込み競争をしたこと、泳ぎはこの鮎返りでみんな覚えたことなど、スイミングスクールに通う僕には想像もつかないことでした。 僕も中学生になり、友達に誘われて釣りをするようになりました。自転車で行ける範囲ですが川崎町の川や溜池にはよく足を運んでいます。どこも護岸工事によりコンクリートで塗り固められ、外来種であるブラックバスやギルが我が物顔でのさばっています。 そういった状況の中で唯一箇所、鮎返りは原風景を止めています。右

岸の一部が階段状の護岸にはなっていますがここに来るとなぜか心が和むのです。ドンコや鮠、川えびや川がにも見かけます。春にはつくしと共にネコヤナギの群落もみかけます。

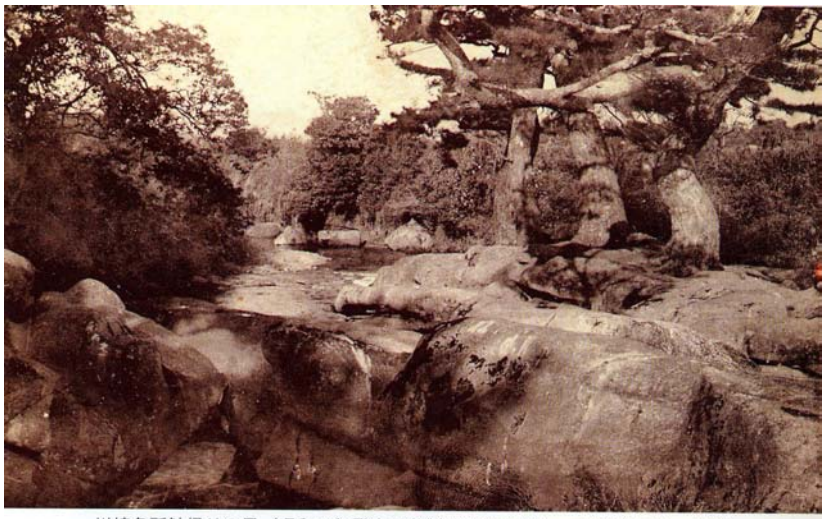
カヌー教室の縁で、我が家は鮎返りをすっかり気に入り、母のにぎりめし持参でよく泳ぎに行くようになりました。今年の夏休み、家族で涼みに出かけたら、橋のところに大勢のお年寄りが並んでいました。何とシジミの子どもを放流していたのです。近くにある老人ホームの計らいでした。鮎返りを大切に思っている人たちの心をつなぐシジミなのだなあと僕は思いました。この川で泳いだであろうおじいちゃん達の顔はほころんでいました。

今回水辺調査をしてみたかったのはこのような理由からですが、社会教育課、図書館で資料や写真を収集して更に驚きました。昭和９年、昭和２１年の写真をみていると自然の偉大さ、雄大さがひしひしと伝わってきます。川崎町史によると地層は侵食されて洗濯板状の地形になっており流れ穴の中では甌穴と呼ばれる大小の穴が見られ、甌穴は学術上貴重な存在であることもわかりました。この岩や樹やそして何よりも澄んだ水が生き物や植物といっしょに僕の祖父や父やたくさんの子ども達を育んできたのだなあと思うと鮎返りが更に身近に感じられるようになりました。

現在、至る所がコンクリートで塗り固められ、一見きれいになっていますが、自然は失われ生態系も変わってきています。それ以上に心のふるさとが失われていくことがぼくは恐いと思います。鮎返りは川崎町の宝です。甌穴が長い年月かけて作られるように人々の心の中にも鮎返りの風景は焼き付けられてきたのです。僕が大人になった時、子ども達を連れてこの鮎返りに川遊びに来れるように、大人の人たちが子ども時代を懐かしめるように心のふるさと鮎返りをいつまでも守っていくことが僕達の使命だと思います。

■ 写　真　　名前　　小賀　優平

＜むかし＞



川崎名所鮎帰りの景（昭和９年発売の私製はがきより）　中島儀三治・提供
（ママ）

昭和９年（祖父が生まれた頃）

福岡県川崎町　名所　「鮎帰りの景」
（返りが帰りとなっている）

観光名所としても名高く私製はがきとして発売された。

（中島　儀三治　提供）

昭和21年「鮎返りの渡し」
園田春堂撮影・濵崎蔵

昭和21年（終戦後）頃

「鮎返りの渡し」
（園田春堂撮影・濵崎蔵）

川崎町史によると昭和２０年代まではネコヤナギは田川地域のどの河川でもたくさん見られたが、その後護岸工事により急激に減少し、鮎返りをはじめとする工事を逃れたところのみ生息する。

「聞き歩き一筑豊川崎の文化」より引用
（２００２年３月発行　濵崎　著）

＜今＞

平成15年　夏

橋（渡し）から上流をみる。

川崎町のほぼ中央を中元寺川が南から北へ流れている。

昔の光景と変わっていない。
この先は霊峰　英彦山へと続く。

昔と違うのは親水公園を意識して一部階段状の護岸になっている。

辺りの深い森と田んぼは昔と変わらない　。この橋からお年寄りがしじみの放流をしていた。

地層は西側に傾いており、侵食されて洗濯板状の地形になっている。

流れの中やそれに近い岩では甌穴と呼ばれる大小の穴が見られる。

甌穴は岩の小さな窪みに小石が入り、水の力で石が回転することで周囲の岩を削りじょじょに穴を大きく深くしたものである。中には人の入れる大きさのものや、いくつかの穴が連なって崩壊したものもある。

甌穴は学術上貴重な存在である。

（川崎町史より引用）